**パラグアイ内政・外交（２０１４年６月分）**

**概要**

**（１）内政**

●６日，下院において，次期下院議長等を選出する投票が行われ，ウゴ・ベラスケス下院議員（コロラド党）が次期下院議長に選出された。

●１８日，上院において，次期上院議長等を選出する投票が行われ，ブラス・リャノ上院議員（リベラル党）が次期上院議員に選出された。

●１１日，去る５月末に議会において可決・成立した専門職（会計士，弁護士，医師等）に従事するために職能団体に加盟することを義務付ける職能団体法に関し，カルテス大統領は，拒否権を発動し，同法は議会に差し戻された。

●２０日，当地主要紙は，コロラド党が推し進める最高裁判事の罷免につき，コロラド党及びリベラル党間の協議が開始された旨報じた。

●１８日，デ・バルガス内務相は，記者団に対し，EPPにより誘拐されたアルラン・フィック少年が未だ生存しているという高い可能性が存在する旨述べた。

**（２）外交**

●３日～５日，当国ルケ市（アスンシオン市に隣接）にて「社会的包摂を伴う発展」を主題とした第４４回米州機構（OAS）総会が開催され，OAS加盟３４ヶ国（外相２５ヶ国，次官６ヶ国，OAS常駐大使３ヶ国）　オブザーバー国３８ヶ国（含むEU），国際機関４０機関が参加した。

●２日，パラグアイ外務省・カザフスタン外務省間の協力に関する覚書の署名式が行われ，ゴンサレス外務副大臣及びYerzhan Ashikbayevカザフスタン外務副大臣が署名を行った。

●１４日，カルテス大統領がボリビアのサンタクルスにおいて開催されたＧ７７＋中国首脳会合開会式に出席し，１５日，ロイサガ外相が同首脳会合に出席した。

●２３～２６日，カルテス大統領は，初のアジア諸国への訪問として日本を訪問し，安倍総理との首脳会談等を行った。

**１　内政**

（１）次期上下両院議長の選出

＜次期下院議長の選出＞

●６日，下院の議長，副議長等（任期は７月１日より１年間）を選出する投票が行われたところ，以下のとおり選出された。

ア　議長：ウゴ・ベラスケス（コロラド党）

イ　第一副議長：アマド・フロレンティン（リベラル党）

ウ　第二副議長：タデオ・ロハス（コロラド党）

●下院議会においては，次期役員の選出について与野党間による協議がスムーズに行われ，コロラド党のウゴ・ベラスケス下院議員が，賛成７７票（欠席３議員）を得て下院議長に選出された。

＜次期上院議長の選出＞

●１８日，上院の議長，副議長等（任期は７月１日より１年間）を選出する投票が行われたところ，以下のとおり選出された。

ア　議長：ブラス・リャノ（リベラル党）

イ　第一副議長：エンリケ・バケッタ（コロラド党カルテス大統領派）

ウ　第二副議長：エドゥアルド・ペッタ（国民会合党）

●上院においては，リベラル党のリャノ上院議員が，賛成２８票を得て次期上院議長に選出された。コロラド党（カルテス大統領派），リベラル党、UNACE党が同上院議員の選出に賛成し，他方，コロラド党の反カルテス大統領派の上院議員は，ダリオ・モンヘス上院議員（コロラド党）を候補に擁立したが，１７票を獲得するに留まった。同選挙により，与党コロラド党上院議員グループ間の対立が鮮明となった。

**（２）職能団体法関連**

●１１日，去る５月末に議会にて可決・成立した専門職（会計士，弁護士，医師等）に従事するために職能団体に加盟することを義務付ける職能団体法に関し，同法律が憲法第４２条「諸団体への加盟・所属の自由」に抵触するとして，各界から批判の声があがっている件につき，カルテス大統領は，同法律に対する拒否権を発動し，同法は議会に差し戻された。

●２８日，バケッタ上院議員（コロラド党）は，議会は，同法に対して発動された拒否権を承認するか否かについての決定は行われていないが，同法は，他のメルコスール加盟国に存在するところ，必要な法律である旨強調した。

**（３）最高裁判事の罷免を巡る動き**

●２０日，当地主要紙は，１８日にリャノ上院議員（リベラル党）が与党コロラド党の協力を得て，２０１４年-２０１５年国会議長に選出された見返りとして，コロラド党が推し進める最高裁判事の罷免につき，コロラド党及びリベラル党間の協議が開始された旨報じた。

●２８日，最高裁判事の罷免につき，アマリージャ上院議員（リベラル党）は，カルテス大統領が同罷免を主導すべきである旨発言した。これに対し，カルテス大統領は最高裁判事の罷免は，議会の権限で行われるものである旨述べ，自身の関与を否定した。

**（４）EPP（パラグアイ人民軍）による誘拐事件**

●１３日，４月上旬にコンセプシオン県に所在するブラジル人家族が経営する農場に EPPメンバー約１５人が侵入し，同農場管理者の長男アルラン・フィック（１６歳）を人質に取り現場から逃走した事件に関し，ラミレス下院議員を始めとする下院議員団が同少年の父親を訪問し，同少年の解放に向けた協議を行った。

●同日，アスンシオン市の学生グループが，同少年の解放を求め，ウルグアイ広場からカテドラルまでデモ行進を行った。

●１８日，デ・バルガス内務相は，記者団に対し，EPPが少年を解放しない理由は，監獄にいるEPPメンバーたちの解放以外の見返りをも求めているためである旨述べるとともに，同少年が未だ生存しているという高い可能性が存在する旨述べた。また，現在，EPPの勢力圏内では政治的な変化が生じており，今までEPPに好意的であった市民がEPPへの批判を強め，過去には行われていなかったEEPを批判するデモ行進が何度も行われるようになってきた旨述べた。

**２　外交**

**（１）第４４回米州機構（OAS）総会の開催**

●３日～５日，当国ルケ市（アスンシオン市に隣接）にて「社会的包摂を伴う発展」を主題とした第４４回米州機構（OAS）総会が開催され，OAS加盟３４ヶ国（外相２５ヶ国，次官６ヶ国，OAS常駐大使３ヶ国）オブザーバー国３８ヶ国（含むEU），国際機関４０機関が参加した。

＜開会式におけるカルテス大統領の演説＞

●パラグアイの民主化移行初期の１９９０年から２４年を経て，OAS総会をパラグアイで再度開催すること，そして今次総会のテーマが「社会的包摂を伴う発展」となったことを喜ばしく思う。

●ヨハネ２３世が述べ，フランシスコ法王が引用したように「発展とは平和を意味する新しい名称」である。人としての達成感，域内の平等な発展，互いの主権を尊重することから平和が生まれる。平和なくして善（発展）は成立しない。

●パラグアイは，投資機会を提供する国である。肥沃な大地，自然災害の少ない気候，豊富な淡水，豊富なクリーンエネルギー，豊富な若年労働力，戦略的な地理的位置，法的安定性の保証，誠実かつ魅力的な財政・税制政策等が世界に対する我々の紹介文である。パラグアイは，域内の多数の国で成功モデルとなった官民連携法及び財政責任法を導入し，国の発展と近代化を推し進めている。

●今後とも米州各国と行動をともにし，我々の国々を強化することでOASをも強化していきたい。今次総会が米州における歴史的な変動をもたらすことを期待する。

＜総会セッション＞

●第１セッションで総会議長にロイサガ・パラグアイ外相，一般委員会議長にヘンリー=マーティン・セントクリストファー・ネイビス駐米大使が選出された。

●今次総会のテーマは「社会的包摂を伴う発展」という加盟国間で大きく意見が分かれるテーマではなかったため，各国とも社会分野での自国の取り組みとその成果の発表に終始し，今次総会は極めて静かで刺激の少ないものとなった。パラグアイ代表団からは，ゴンサレス外務副大臣が，テコポラ計画（貧困家庭への現金支給を含む援助計画）等の所得移転政策により，過去２年間において極貧率を１８％から１０％に減少させた実績を紹介した。

●ベネズエラ情勢については，ALBA諸国による米国批判が聞かれたものの，その他の国々は対話による平和的解決を求める旨述べるに留まり，大きな議論とならなかった。なお，

●第４５回OAS総会は，２０１５年６月７日～９日にハイチで開催されることが決定。　今次決定に関し，ブリュテス・ハイチ外相は，１９９５年に第２５回総会をハイチのモウリンで開催し，それから２０年後となる２０１５年の総会の開催国となったことをハイチ政府として誇りに思う旨述べるとともに，次回総会の開催は，ハイチにとってOASの制度強化に向けて積極的に取り組んでいく決意を表明する機会となる旨述べた。

**（２）ロイサガ外相のOAS総会期間中の会談**

●２～４日，ロイサガ外相は，当地において開催されたOAS総会出席のために当国を訪問した米州諸国の外相等と会談を行った。

＜ムニョス・チリ外相との会談＞

●２日，ロイサガ外相は，ムニョス・チリ外相との会談を行い，その後，共同記者会見を行った。ロイサガ外相は，同記者会見において，今次会談ではアントファガスタ港及びフリーゾーンの利用促進，両国間アクセス改善等のニ国間アジェンダにつき，意見交換を行った旨述べた。また同外相は，ムニョス外相から本年７月末にコロンビアにおいて，太平洋同盟とメルコスールの対話を行うという提案につき話があったとした上で，同対話を両地域の統合に向けた重要な出来事となるだろうと評価した。

＜ミード外相との会談＞

●２日，ロイサガ外相は，ミード・メキシコ外相との会談を行った。ロイサガ外相は，会談後の記者会見において，文化，政治，経済等の様々な分野における協力関係の促進につき一致した旨述べた。これに対し，ミード・メキシコ外相は，貿易，投資，観光・文化交流を促進するための法的枠組みの強化につき意見交換を行った旨述べた。また，両国間の経済補完協定締結交渉についての記者団からの質問に対し，交渉は順調に進んでいる旨述べた。

＜ベアード・カナダ外相との会談＞

●３日，ロイサガ外相は，ベアード・カナダ外相との会談を行い，官民連携，河川浚渫等におけるカナダの経験，両国間貿易の促進，両国間航空協定締結の可能性につき意見交換を行った。

＜その他＞

●その他，４日，ロイサガ外相は，カレーラ・グアテマラ外相，ハウア・べネズエラ外相，アルマグロ・ウルグアイ外相，パティーニョ・エクアドル外相，ヒギンボトム米国務副長官との会談を行った。

**（３）カザフスタンとの覚書の署名**

●２日，OAS総会が開催された南米サッカー協会コンベンションセンターにおいて，パラグアイ外務省・カザフスタン外務省間の協力に関する覚書の署名式が行われ，ゴンサレス外務副大臣及びYerzhan Ashikbayevカザフスタン外務副大臣が署名を行った。同覚書において，両国外務省は，ニ国間，多国間の様々なテーマに関し，定期的に会議を開催し，両国の直接的な関係の発展・強化を図ることで一致した。会議は，カザフスタン，パラグアイ, または第三国において，交互に行うこととし，出席者のレベル，時期，議題等については，今後外交ルートを通じて決定することとなる。なお，本件署名に先立ち，両国外務副大臣は会談を行い，ニ国間関係について意見交換を行った。

**（４）カルテス大統領及びロイサガ外相のＧ７７＋中国首脳会合出席**

●１４日，カルテス大統領がボリビアのサンタクルスにおいて開催されたＧ７７＋中国首脳会合開会式に出席し，１５日，ロイサガ外相が同首脳会合に出席した。

＜カルテス大統領の開会式出席＞

●１４日，カルテス大統領はＧ７７＋中国首脳会合の開会式に出席した。また，カルテス大統領は，二国間会談を行わなかったものの，夕食会の前の時間を利用し，マドゥーロ・ベネズエラ大統領，ラウル・カストロ・キューバ国家評議会議長，コレア・エクアドル大統領，ウマラ・ペルー大統領，ムヒカ・ウルグアイ大統領との立ち話を行った。なお，同日深夜，カルテス大統領は，首脳会談に参加するという当初の予定を変更し，パラグアイに帰国した。

＜ロイサガ外相の首脳会合出席＞

●１５日，ロイサガ外相は，Ｇ７７＋中国首脳会合にパラグアイ政府を代表して参加し，「サンタクルス宣言」に内陸開発途上国に関する項目を入れることを提案し，承認を得た。同宣言には，「海洋へのアクセスの不足，世界市場に遠い地理的状況を原因として，内陸国が立ち向かう困難と挑戦を認識する。内陸国の経済的発展及び社会的福祉が依然として，外的な混乱や世界的な経済・金融危機，気候変動と行った国際社会が取り組む課題に左右されやすいことへの懸念を表明する。」旨明記された。

**（５）ロイサガ外相の第９回太平洋同盟首脳会合オブザーバー各国との対話への出席**

●２０日，ロイサガ外相は，メキシコにおいて開催された第９回太平洋同盟首脳会合オブザーバー各国との対話に出席し，パラグアイ政府を代表して発言を行った。

●同外相は，基本的価値観及びラ米の地域統合を新たな次元に導こうとするイニシアチブをパラグアイ政府が共有する旨述べるとともに，今次会合におけるパラグアイのオブザーバーとしての参加は，太平洋同盟との関係を強化しようとするパラグアイの立場を再度表明するためのものである旨述べた。また，同外相は，パラグアイを高付加価値を有する産品の世界的生産地に変貌させようとする政府の経済政策，私的所有権の保障，豊富な若年労働人口及びクリーンエネルギー等の投資環境の良さに言及し，パラグアイへの投資を呼びかけた。

**（６）カルテス大統領の日本訪問**

●２３～２６日，カルテス大統領は，初のアジア諸国への訪問として日本を訪問した。なお，同訪日には，サラ・カルテス女史（大統領の姉），ソフィア・カルテス女史（大統領の長女），ロイサガ外相，ロハス蔵相等が同行した。

＜パラグアイ外務省による叙勲式＞

●２４日，帝国ホテルにおいて，パラグアイ外務省による河村健夫衆議院議員（日パ友好議連会長）及び山田彰日本国外務省中南米局長に対する叙勲式が行われ，ロイサガ外相が勲章の授与を行った。なお，同叙勲式には，レイテ商工相，ロハス蔵相，在京中南米各国大使等が出席した。

＜天皇陛下御会見＞

●２４日午後，カルテス大統領は，皇居において，天皇陛下御会見を行った。天皇陛下は，皇居内の御所において，カルテス大統領を丁重にお迎えし，儀礼に基づいた挨拶の後に，写真撮影が行われた。その後，約３０分間に及ぶ御会見が行われた。

＜パラグアイ投資誘致セミナー＞

●２５日，カルテス大統領，レイテ商工相，ロイサガ外相等出席の下，米州開発銀行（ＩＤＢ）主催による日本企業に対するビジネス朝食会が東京の帝国ホテル桜の間において開催され，右会合の場で同大統領はパラグアイにおける企業活動を支える取組につき説明を行った。また，同大統領は，出席した日本企業（日野自動車，三菱，東京三菱ＵＦＪ銀行，東芝，トヨタ自動車，ヤマハ発動機等）に対し，「我々（パラグアイ政府）は自由市場において世界が繋がりを持つべきであると信じており，働く者に対し負担となるような（過度な）税を課すようなことはしない。パラグアイは（特に若者の）雇用機会を求めており，生産性を向上させ，高い競争力を持つ国となることを目指している」旨述べ，パラグアイ経済の概要を実情に即した形で説明した。続いて，レイテ商工相らが，南米の中心に位置するパラグアイにおけるビジネス環境及び同国における投資に対する機運の広がり等につき詳細な説明を行った。

＜無償資金協力の署名式＞

●２５日，首相官邸において，無償資金協力「コロネル・オビエド市給水システム改善計画」及び「パラグアイテレビ番組ソフト整備計画」に係る交換公文（Ｅ／Ｎ）等の署名式が行われ，上田大使とロイサガ外相が署名を行った。

＜首脳会談及び共同記者発表＞

●２５日，カルテス大統領は，首相官邸において安倍総理との首脳会談及び共同記者発表を行った。

●カルテス大統領は，同会談後の共同記者発表において，日本政府から提供された訪日の機会につき，感謝の意を表明した。また，同大統領は，両国は地理的に離れているものの，１９３６年の日本人移民のパラグアイへの移住開始以降，７８年間にも亘り，協力関係を築き上げてきたという特別な理由があるからこそ，日本をより近くに感じており，以前から訪日したいと考えていた旨述べるとともに，日本人移民は，パラグアイに教育及び発展をもたらし，また，日本と新たな夢に向けて進んでいくことを嬉しく思う旨述べた。更に，パラグアイで発生している河川の増水による洪水被害に関して，日本政府が即時的に緊急援助を行ったことに対し，パラグアイを代表して感謝する旨述べた。企業誘致については，高品質，効率の良さ，秩序及び規律の代名詞とも言える日本からの企業進出がパラグアイに与える重要性を強調するとともに，既に進出した日本企業のパラグアイの良好な投資環境に関する証言が呼び水となり，日本からの投資が更に増えることを期待する旨述べた。

＜その他＞

●カルテス大統領は，その他，日パ友好議連主催昼食会への出席，日本記者クラブでの講演会等を行い，２６日日本を出発し，２７日パラグアイに帰国した。

**（７）カルテス大統領と当地外交団の会合**

●１９日，当地バチカン大使公邸において，カルテス大統領及び政権閣僚並びに当地外交団との会合が行われた。カルテス大統領は，同会合において，第44回OAS総会の成果，パラグアイが提供する投資機会等につき説明を行った。

**３　要人往来**

**（１）来訪**

●３～５日，米州各国外相等（OAS総会出席）

●１４日，タヤーニ欧州委員会副委員長（カルテス大統領表敬等）

**（２）往訪**

●１４日，カルテス大統領，ボリビア訪問（Ｇ７７＋中国首脳会合開会式出席）

●１４～１５日，ロイサガ外相，ボリビア訪問（Ｇ７７＋中国首脳会合出席）

●１８～２１日，ロイサガ外相等，ﾒｷｼｺ訪問（太平洋同盟首脳会合ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰとの対話）

●２３～２７日，アベド司法省，ケニア訪問（国連環境総会出席）

●２３～２６日，カルテス大統領等，日本訪問（安倍総理との首脳会談等）

●２７～２９日，ロイサガ外相，米国訪問（各種会合出席）